

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立松山商業高等学校（全日制）
学校番号 (25)

教育方針	個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間の育成に努め、新しい職業観のもとに豊かな情操を身に付け、勤労と責任を重んずる資質を養い、国家社会の有為な形成者として創造性と実践力に富む心身ともに健全な商業人の育成を期する。	重点目標	地域社会に根ざした商業教育の推進 ー地域を活性化させる人材の育成ー
------	---	------	--------------------------------------

領域	評価項目	具 体 的 目 標	評価	目 標 の 達 成 状 況	次 年 度 の 改 善 方 策
生徒指導	学校生活の基本の徹底	さわやかな「挨拶」ができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	B	生徒94%、教職員95%、保護者91%がさわやかな「挨拶」ができていると回答している。	挨拶の大切さを理解させ、生徒からの呼びかけで自主的な挨拶できる生徒を増やす。
		端正な身だしなみができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	生徒の98%が、高校生らしい身だしなみができていると回答している。	進路指導と結び付け、身だしなみの重要性を理解させ、日々の生活の中で、自ら身だしなみを整えることのできる生徒を増やす。
		皆勤率50%以上、年間出席率99.0%以上を目指す。 A:50%,99% B:45%,98% C:40%,97% D:35%,96% E:35%未満,96%未満	A	新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、健康面に不安に感じた生徒もいたが、皆勤率 62.2%、年間出席率99.0%で目標の達成率はほぼ達成できた。（2学期末）	教員間の連携を深めることで、教育相談体制を強化し心のケアにも努める。
		清掃の意味を理解し、積極的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	B	生徒の94%が真面目に取り組んでいると解答しているが、教職員の評価は78%であった。教員の評価は昨年度に比べ、10%上昇したが、依然生徒との開きがある。	コロナ禍のもとでの衛生環境を守る必要性を説くことで、清掃の意味を考えさせ、率先して活動できる生徒を増やす。
	交通ルール・マナーの遵守	自転車のヘルメット着用率100%、重大交通事故0件を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	B	99%の生徒が通学時ヘルメットをきちんと着用していると回答している。軽微な交通事故は複数発生したが、重大交通事故は0件であった。	重大事故こそなかったが、車との接触事故や転倒事故は34件発生しているため、自分の命は自分で守ることの大切さを理解させると共に交通ルールとマナーの厳守を徹底する。
特別活動	豊かな人間性と思いやり	いじめ発生件数0件、または、早期発見・早期対応に努め、早期解決 100%を目指す。	B	いじめ発生件数は2件。友人間の些細なトラブルにより発生するケースが見られたが、生徒からの申し出や人権教育課からの生徒のアンケート等により、早期に生徒課、教育相談課とH R担任との連携等により適切に対応した。	教員全員が、生徒の声をしっかり受け止める姿勢を示すことで、相談しやすい体制を作る。
		ボランティア活動に積極的に参加する生徒100%を目指す。 A:90% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	D	ボランティア活動に積極的に参加した生徒67%と参加率はやや低い。新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、地域の行事が開催されなかったことも原因の一つと考えられる。	新型コロナウイルスの感染状況によるが、より多くのボランティア活動を生徒に紹介し、活動の機会を増やす。
	学校行事の活性化	学校行事に主体的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	B	新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、規模縮小で行った学校行事ではあったが、主体的に取り組んだ生徒は92%で、活気ある学校行事を行うことができた。	学校行事の取捨選択を行うことで、生徒たちがさらに主体的に取り組めるよう工夫する。
	部活動の活性化	四国大会出場12部以上、全国大会出場10部以上を目指す。 A:12部,10部 B:10部,8部 C:8部,6部 D:6部,4部 E:6部,2部未満	D	新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、公式試合が中止される中、四国7部、全国2部の出場であったが全体として活発な部活動が展開された。	生徒のニーズに応じた指導を提供することを通じて、より部活動を活性化させたい。
	学習指導	乳幼児、高齢者、地域の方々との交流活動における充実感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	A	園児向け防災教室、東雲公民館の清掃活動や松山乳児院の乳幼児へのプレゼントなどを行った。100%の出席率や感想等から充実した様子がうかがえた。新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、愛媛県「地域連携心豊かな高校生育成事業」の一環としての交流体験学習は、実施できなかった。	生徒がさらに充実感が得られるよう、主体的に交流活動での体験が生徒の自己啓発につながるよう事前指導を工夫する。
		ビジネス実習・現場実習・1000日実習における達成感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	A	新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、ビジネス実習と現場実習は実施できなかったが、1000日実習は2学期以降実施することができた。	実習での学びが学校生活や進路実現に生かせるように努める。
		本校と協働活動を行った地域コミュニティの数10以上を目指す。 A:10 B:8 C:6 D:4 E:4未満	A	地域ビジネス科の担当者が中心となり、地域コミュニティとの連携を深めるとともに、生徒は限られた中で地域行事等に積極的に参加した。	自主防災組織の活性化や様々な地域課題の解決に向けた新たな活動など、地域コミュニティのために貢献できる活動を実施したい。
		地域イベントに主体的に参加した生徒の延べ人数100人以上を目指す。 A:100人 B:90人 C:80人 D:70人 E:70人未満	A	各種地域イベントには、延べ人数157名の生徒が参加した。昨年度に比べ、約7割の参加人数になったが、生徒は限られた中で地域行事等に積極的に参加した。	全校生徒が各種イベントに参加できる機会を作るために、より多くの地域イベントを紹介したい。

※ 評価は5段階（A：十分に成果があった B：成果があった C：ふつう D：少しの効果があった E：成果がなかった）とする。

注 領域や評価項目は例を示したものであり、学校の実態に応じて適切に定めるものとする。設定する領域や評価項目に応じて欄を増やすこと。枚数は、2枚以上になってもよい。

学習指導	教科指導の充実	授業の内容がよく理解できる生徒85%以上を目指す。 A:85% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	B	教員はわかる授業の実践を心がけ、日々指導方法を工夫しており、83%の生徒が授業の内容がよく理解できると回答している。	電子黒板、Wi-Fi、学習支援ソフト等のICT機器を活用した授業研修会さらに充実させたい。来年度から愛媛県から生徒にはタブレットを一人1台使って学習することになった。今後は、タブレット等を利用した授業についてもさらに検討したい。
		授業に積極的に取り組む生徒90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	B	89%の生徒が授業に積極的に取り組んでいると回答しており、充実した授業が展開できている。	生徒が主体的、対話的で深い学習につながるよう教員の研修会の確保に努めることで、生徒が授業に今以上に興味・関心を示すなど、楽しい授業なるよう工夫する。
進路指導	進路指導の充実	各種資格取得・検定合格者の増加を目指す。	A	昨年度も多くの資格検定試験で、数値目標を上回った。今年度はさらに増加した。全商検定試験1級3種目以上合格者は、265名と過去で最高であった。	進路実現に役立つことなどを示し、資格取得に対する生徒の意欲を今以上に喚起したい。
		進学・就職において希望する進路実現100%、地元企業への就職率90%以上を目指す。 A:100%,95% B:95%,90% C:90%,85% D:85%,80% E:80%,75%	B	就職は内定率100%を達成した。地元企業への就職に関しても94%であった。進学についても国公立大学、私立大学等、おおむね希望する進路実現を達成した。	キャリア教育の充実や学力の向上に努めたい。進学では、地元の大学だけでなく、全国の大学に視野を広げ、生徒一人一人に対応した進路指導に努める。
業務改善	適切な勤務時間	業務の効率化や休暇を取りやすい環境作りを進め、勤務時間の適正化を図る。	B	休暇を気軽に取ることができる環境は整備されつつあるが、業務量に偏りがあり、勤務時間が多い教員がいる。	校内人事や各部署の役割分担においては、教職員全員で学校を運営するという考えのもと、業務量の平準化を図る。
	職場環境の整備	健康相談、衛生委員会、管理職による面談等を通じて、教職員の心身の健康に努める。	C	心身の健康に関する相談をしやすい環境は整備されつつあるが、体調を崩す教職員が複数名出た。	心身に変調をきたさないためにも、適材適所の役割分担と休暇を気軽に取ることができる環境整備を徹底する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

注 領域や評価項目は例を示したものであり、学校の実態に応じて適切に定めるものとする。設定する領域や評価項目に応じて欄を増やすこと。枚数は、2枚以上になってもよい。